

【ねがいましては】

第67号

平成6年8月27日
共和珠算学習塾

「挑戦」

今年も無事にキャンプが終わりました。今年は例年になく「チャレンジ」が多かったように思います。まず、行きのこと。小学5・6年生だけ4人で大月駅まで来てもらったこと。実はその4人、教え子さんが教室から乗用車でキャンプ場まで連れていくはずだったのです。が、ちょっととした手違いで正午を過ぎても教室から出発できなかつたのです。そこで私、即判断、「4人で来て」。4人にとってはワクワクと不安が入り混じつた気もちだったでしょう。日本版「ミニ・スタンダーバイミー」といったところです。そして大月駅へ着けたのです。「ヤッタ一」。つぎの挑戦、山登り、富士山周辺も都会に負けず暑かつた。そしてまた今年もみごと全員「三湖台山頂」へたどりついた。「気分が悪い」と、もらしていたのはスタッフの方々。

次のチャレンジ、キモだめし、例の犬の訓練士の殺人事件があった山梨県警の死体操作打ち切り話をしたあと、イザ、二人一組で樹海の中へ・・・全員やり遂げたことはいいのだけれど、男同士で手をつなぐのはちょっと・・・翌日「またやろうか」の私の声に、全員で猛反対！

そして私が一番彼らを成長したなと感じたのは帰りのことです。なんと、中2たちが帰る前日、自分たちが下級生を引率し全員で帰つてみたい（実はスタッフ2名は3日目に私用で帰つてしまひおりません）と言いました。もちろん民主主義の立場から皆で話し合い可決されました。そして彼等総勢25名は、みごと教室までたどり着きました。無事故、無違反の金メダルです。

到着後、聞いたことなのですが、皆、電車内ではお年寄りに席を譲ったり、小さい子には率先して座つてもらつたりしていたということです。誰にも言われずに自らの意思で行動がされること、これから的人生に必要な大切なものを学んだようです。

心なしか、彼らのその後の授業への取り組み方も違つてきたような・・・。
「なんて危険なことを」と、お感じの方もいらっしゃると思いますが、過保護が目立つ世の中、私はよくやつたと誉めてあげたいのです。

実は、あるスポーツ雑誌に市民駅伝のお知らせが載つており、中学生を中心に出場することにしました。

日時 9月15日（祝）

場所 立川 昭和記念公園

1区5キロ、2区3キロ、3区3キロ、4区2キロ

クリチャンズA、	中野 雅弘	中1	B、	小柳 博幸	中1	C、	胡内 章範	中2
中居 丈治	〃		高橋 一	〃	花沢 一馬	〃		
稻庭 勇人	〃		加藤健太郎	〃	木下 勝也	〃		
久慈 健吾	〃		佐々木 典人	〃	保坂 透	〃		
D、	長沢 清輝	中3	E、	栗田 幸雄	成人			
宮田 裕輔	中1		藤井 京子	中3				
森川 信弘	成人		三井 亜希	〃				
鈴木 真希子	中2		清水 智美	〃				

「勝つ」というより、周りに来ている多くの人たちを見てもらう。そして自分だけが苦しいのではないということ。様々な年齢層の方々が目標に向かって走ることを見てください。きっと何かを学べるはずです。入試をひかえている子たちも、そこから「土台」を築いてくださいね。「こつこつ」です。